

# 星辰

No.94  
 長野市大字南長野  
 幅下692の2  
 TEL.026-217-5858  
**県政だより**  
 発行責任者  
 県民クラブ・公明大北  
 宮澤敏文  
 E-Mail:kenmindub  
 @lily.ocn.ne.jp  
 星辰とは、変わるこ  
 このないもの、理想

## 宮澤敏文県議 アフターコロナの 長野県像を熱く提言

宮澤県議は十一月県議会のトップで登壇  
 アフターコロナの諸課題の解決と将来の  
 人口減少の弊害と先取り政策を多く提言  
 した。



昨年の国勢調査の結果、日本は世界で一番若者が少なく、高齢者が多い国（比率）に

には、早い段階から、若い人達  
 が、地域の企業や産業について  
 意識することが必要である。

③長野県のものづくり産業を担  
 う「ひと」を育てる教育が、初  
 等、中等教育で行われてお  
 り、現状とその成果をどのよう  
 に分析しているか。また、高校  
 教育の中で、「地域と共に歩む  
 ことの大切さ」をどのように教  
 えているのか伺う。

答弁者 教育長

小中学校を対象に、プログラ  
 ミングを組み合わせて新たなア  
 イデアを生み出し、様々なもの  
 づくりに挑むイベントを県内4  
 ブロックで開催している。高校  
 では、地域の企業と連携・協働  
 した取組を行い、実践的なもの  
 づくりの技術や先端技術の基  
 礎・基本を学ぶとともに、職業  
 人としての意識の涵養を図って  
 いる。池田工業高校では、池工  
 版デュアルシステムの中で、2  
 年間にわたって、企業の高度な  
 技術と知識を学んだ。

④産業振興を最重要課題とする  
 本県において、人材の育成と確  
 保の観点から、企業のニーズを  
 取り入れ、企業と高校をつな  
 ぐ「企業出身者のコーディネー  
 ター」制度の導入が必要と考え  
 るが、見解を伺う。

答弁者 知事

そうゆう観点で、池田工業高  
 校の事例であったり、県として  
 モデル的に行った取組もあるの  
 で、もう一回検証して、企業と  
 高校をつなぐ具体的な連携のあ  
 り方を考えていきたいと思う。

⑤長野県産業立地ガイド誌の中  
 で、地域振興局こと的高等教育  
 機関一覧が掲載されているが、  
 北信地域振興局・北アルプス地  
 域振興局については記載がない。  
 教育委員会の準備している統廃  
 合案では、その中では専門学校  
 もなくなろうとしている。「地  
 域で学び地域で働く」を掲げる  
 県政として、すべての地域での  
 郷学郷就が課題だと考えるが、  
 見解を伺う。

答弁者 知事

人口構造を見ますとどうして  
 も二十歳前後の人口が、長野県  
 は少なくなっているという状況

です。できるだけ長野県で学び、  
 長野県で働ける、そつした環境  
 を作る。郷学郷就をキーワード  
 に取り組みを進めている。宮澤  
 県議のご質問にあったように、  
 もう少し身近な地域での郷学  
 郷就ということもじっくり考え  
 るべきである。一人一人の若者  
 それぞれの地域を中心とした視  
 点も大切にしながら、若い世代  
 が学びやすい、働きやすい環境  
 づくり、これは全県を視野に入  
 れて取り組んでいきたい。

⑥高校再編について、今年度中  
 には統廃合案を提案すると聞い  
 ているが、仮に統廃合するとし  
 た場合に、決定後、何年後に開  
 校する予定で提案するか伺う。

答弁者 教育長

再編計画の決定から開校まで、  
 およそ7年から8年程度は必要  
 である。

### 2 砂防事業について

①山岳県である本県の砂防事業  
 の功績について、どのように評  
 価しているか伺う。

答弁者 知事

「はじめに砂防ありき」とい  
 う言葉がありますが、地域の安  
 心・安全を守る砂防施設の整備  
 によって、県民の皆様の安心し  
 たくらしが成り立っているとい  
 えます。

②小谷村稗田山に、例えば国が  
 実施している事業の公開や観光  
 対策を行い、砂防ミュージアム  
 のような施設を建設する等して、  
 自然の猛威と砂防事業の重要性  
 を伝え、学び場所を作るべきと  
 考えるがいかがか。

答弁者 建設部長

日本三大崩れである稗田山や  
 その周辺砂防施設を通じて、自  
 然の猛威や砂防事業を学ぶこと  
 は、県民の防災意識を向上させ、  
 逃げ遅れゼロを達成させるため  
 に重要と認識している。稗田山  
 の観光活用やPRについて、小  
 谷村や国と連携し、村を事務局  
 とする協議会を設置して、今年  
 度より、具体的な方策の検討を  
 始めた。県としても、当協議会  
 を積極的にけん引し、引き続き、  
 観光にも資するように、創意工  
 夫を図っていく。

**1 地域振興と人材育成について**  
 ①長野県が多く抱える中山間地  
 では、少子化や過疎指定地域の  
 増加といった課題があり、特に  
 財政力の弱い多くの基礎自治体  
 では、過疎防止策の実施や上下  
 水道・公共交通網の維持が難し  
 くなっている。様々な変化が予  
 想されるアフターコロナ時代に  
 おいて、長野県の中山間地はど  
 のように変化すると分析してい  
 るか伺う。

答弁者 知事

都市部への人口流出、出生数

の減少等が進行して、地域社会  
 あるいは産業分野の担い手不足  
 による活力の低下等、現在各地  
 域で直面している課題が一層深  
 刻化することが懸念される。  
 ②製造業を繁栄させるには、時  
 間をかけて蓄積した技術の継承  
 と、地元就職できる循環をつ  
 くる必要があると考えるが、ど  
 のような取組が必要であるか認  
 識を伺う。

答弁者 阿部知事

製造業を含む様々な技術継承





山小屋等山岳関係者の厳しい状況を訴える。務台副大臣、国関係課長へ宮澤長野県議会山岳環境保全議連会長と県観光・環境部各課長（環境副大臣室）

### 3 地域高規格道路 松本系魚川連絡道路について

①異常気象による河川災害が多発している時期に、将来的に重要物流道路となり得るこの地域高規格道路が河川の護岸を使用するためには、強靱な整備が必要と考えるが、現状の堤防道路をどう改修するか伺う。

答弁者 建設部長

現道活用区間の道路整備は、治水上の安全を考慮し河川法の基準に則ったうえで、災害に強い強靱な道路を整備していく。

②県道上生坂松川停車場線との交差部分は、当該地域の主たるインターの出入口であり、地元住民は交通事故の多発を心配し、どのように改修するか関心が集まっている。今後の整備計画と完成後の姿について伺う。

答弁者 建設部長

病院や駅等が近いうえ周辺地域の利用者が多いことから、アクセス性の向上や治水安全上の観点に加え、利便性に充分配慮し、概略設計を進めているところである。地域高規格道路としての機能を踏まえた検討を進める。整備にあたっては、国の補助金を活用することにより、整備が早急に進むよう取り組む。

③小谷村塩水地域は、地域高規格の調査区間に入っており、今後地域高規格に対応する道路計画を発表するとされているが、その計画の進捗状況について伺う。

答弁者 建設部長

本年度、道路概略設計に着手した。豪雪地域であることを十

分に考慮したうえで、改良計画の検討を進める。

④小谷道路に連絡する外沢トンネルは、地域高規格道路の基準にそぐわないと考えており新たなトンネル建設の必要性を感じているが、外沢トンネルの今後の方針について伺う。

答弁者 建設部長

高規格道路としての構造を満たしていない。改良の必要性を認識している。トンネル拡幅の技術的難易度や交通管理の点から、バイパス計画も視野に入れ、整備方法について検討を進めていく。

### 4 農業問題について

①本県の中山間地域の農地を維持する取組を行うべきと考えるが、取組への決意を伺う。また、米消費の低迷、新型コロナウイルスの影響により、米単作農家の生活が苦しくなっているという現状があるが、今後稲作農家に対してどのような対策を行っていくか伺う。

答弁者 農政部長

地域をけん引するリーダーの存在が不可欠であるため、市町村や農業団体と連携しながら、リーダーの育成を図ることに併せ、半農半勤などの農ある暮らしへの支援を通じ、中山間地域の農地を守っていく。稲作農家に対しては、需要が見込める園芸品目を導入し、高収益作物の導入による複合化を進めることも重要である。

②本県の園芸特産分野の振興のために、希望者が多い、県単の信州農業生産力強化対策事業の増額を含め、生産者・農業団体が期待する本県の円米政策の拡充を図るか伺う。

答弁者 知事

「信州農業生産力強化対策事業」については、現地、地元也希望も十分伺いながら来年度も必要な予算の確保に努めていきたい。現場のニーズに答えられるメニューの見直しもを行い、事業の充実を図っていきたい。取組を総合的に進める中で、全国に誇れる園芸王国づくりに取り組んでいく。

### 5 商工会について

市町村商工会の職員給与は、5年ごとに実施される経済センサスの結果を算定基準に決定され、小規模事業者の経営支援事業費として各商工会に支払われているのが現状である。このような現状を打開するため、速やかに検討を開始すべきと考えるが、いかがか。

答弁者 知事

県の補助事業については、安心して経営支援に取り組みめるよう、小規模事業経営支援事業費補助金のあり方について、県ともしっかり検討していく。

大事なことだと思いが伺う。

答弁者 教育長

来年度には、県内の専門学校の配置について一定の方向が定まる見込みであり、その確定した後に専門学校の新設や学費の充実を図るため、産業教育審議会に諮問することを検討していきたい。

### 【再質問】

県や市町村において、若い世代の人口減少は深刻な問題である。県下の均衡ある発展、県内のどこに住んでも適正なサービスを享受できる生活の充実を考慮した、阿部県政の人口政策について伺う。

答弁者 知事

今年度中を以て少子化対策に向けて、県と市町村がどういう取組をするのか、そうした戦力を取りまとめた。地域を活性化させるためのつながり人口の増加にも全力を傾けていきたい。国家的な課題として国にも、市長会、町村会と連携して要請をしていきたい。



「地域の元気を創る商工会の財政を守れ」と全国の商工会役員と改革検討会議で廻る。宮澤敏文商工会在り方検討委員長、中村専務、中村参事（前県観光部長）小野沢局長（和歌山県）

### 【再質問】

この際、7年間も開かれていない産業教育審議会を開催し、将来の本県の専門高校に求められる教育の在り方や構成等を再検討することが



今から100年前、地域の人達が貧しい中「教育がなにより大事」と浄財を集め開校した、池田工業高校、生徒の学ぶ心は継承される。（特別授業をする宮澤県議）

## 北アルプス山麓ニュース

★振興局と宮澤敏文農振協会長で北小谷杏平区の皆さんと荒廃棚田を再利用しての「クレソン栽培」。二年植栽し、10月から軽井沢プリンス、ホテル白馬に出荷した。

★「皆がITを利用できるように」と商工会北安曇支部が、ホテルなど小規模事業者にきめ細かい研修会を、日本アルプス国際学院と連携して始めた。令和4年からは「Go to トラベル」の精算が電子申請、電子精算となるための研修も日本アルプス国際学院で準備している。

★小谷村の稗田山は日本三大崩れ、作家幸田文さんも注目。「砂防事業と大地の厳しさ」を観光地へ向けての検討を始めた。6・10月には、宮澤県議、中村村長、北村議長や村姫川砂防、県砂防職員が富山県立山、静岡県大谷崩れを視察した。